

図書館、再開発ビルに併設の方針確定

「図書館建設事業」は、後免町再開発ビルへの併設方針で推進していましたが、その内容・規模などに不確定要素が多くあったことから、市長の指示を受けた市教育委員会が、市民の代表者などで図書館建設基本構想検討委員会を組織し、慎重審議した結果、「建設場所について、併設でなく単独施設が望ましい」と、答申しました。

その後の教育委員会での審議結果や行財政運営上の今後の見通し、さらには後免町の活性化と、これを突破口として推進しなければならない都市計画事業との関連など、さまざまな要因、とりわけ「図書館の早期建設と財政運用」という2つの重要ポイントから浜田市長は、内容については答申を最大限尊重するとしうえで、建設場所については、再開発ビルへの併設との方針を決定・発表しました。

市長の方針どおり事業が推進した場合、平成13年度中に図書館建設事業着手の段取りとなります。

第270回市議会が、9月11日から28日の日程で開会され、浜田市長は冒頭、市職員の不祥事について、その被害者と市民におわびしました。

その後、図書館の建設場所を後免町再開発ビルとするとの方針を述べ、さらに空港再拡張対策などの当面する主要施策の現状について報告しました。

以下はそのあらましです（次ページにつづく）。

住居表示整備事業に伴う 字の区域変更および名称の変更について（公告）

平成10年度住居表示整備事業を行う南国市野中・廿枝の一部について、幸町を新設し、字を変更することとなりました。実施時期は、平成11年2月を目標としています。

つきましては、本案について異議がある場合は、政令の定めるところにより、市長に対し、本件公告の日から30日を経過する日までに市議会議員および市長の選挙権を有する50人以上の連署をもって理由を附して本案に対する変更の請求をすることができます。以上、住居表示に関する法律第5条の2の規定により公告します。



幸町を新設する区域の名称

幸町

平成10年10月1日

起業者 南国市

◆企画

空港拡張整備事業は、空港
本体工事に係る市道・水路な
どの付け替え工事、補償工事
が事業開始となり、市が実施
する空港周辺整備事業は、財
政負担を軽減するため、県と
県内52市町村で組織する高知
空港周辺対策促進協議会を設
立、5年間で7億5千万円を
本市に寄附、県が別に7億5
千万円を直接補助する支援額
が確定しました。地域代表者
による「空港周辺対策協議会」
が地元要望を調査中です。

阿佐線事業の用地取得は、
後免町駅から物部川までの間
が完了、下野田・西野田町・
駅前町の地権者と話し合いを
進めています。



▲9月3日、下水道相談デー

◆都市計画・下水道

後免町再開発事業は平成11
年度中の都市計画決定に向け、
保留床処分先の関係機関との
協議に全力を挙げています。
吾岡山文化の森公園整備事
業は、子どもの広場について
早期完成を目指します。
土地の高度利用や市街地の
拡大など都市化の進展に伴う
雨水排水対策整備計画を作成
します。

◆農業・商工・環境

米の緊急生産調整は、目標
の約96%見込みです。道の駅
は、本体の建設工事を発注し
11年度の開業へ向け経営体制
の整備を図ります。

8月8日「第10回土佐のま
ほろば祭り」が、地域色・国
際色豊かに開催され、多くの
市民でにぎわいました。
一般廃棄物最終処分場の建
設は、部落代表と地権者との
協議を継続、下八京地区の住
民に先進地の視察をお願いし
施設に一定のご理解をいただ
けました。新施設は14年度に
供用開始となるため12年度、

◆保健・福祉

13年度の間は不燃ごみを他で
処理しなければなりません
代替措置で対応、市民生活に
影響させません。

市母子保健計画「優しいま
ち・ひびきあう心」が策定さ
れ、実施に向け取り組んでい
ます。健康づくり事業を積極
的に進めることが国保運営の
一層の安定につながるものと
考えています。介護保険制度
は、要介護者などを実態調査
し調査結果を集計分析、高齢
者の要介護度別および状態像
別の人数分布が把握できると
考えています。

◆民生・教育

保育所の民営化は答申に沿
い、民営化可能園の保護者会
や地域の代表者などと話し合
いを重ねました。大森保育所
保護者会との話し合いは2回
実施、特別保育などの要望・
女性の就労を含めた、育児と
の両立や少子化の問題、低成
長経済の中で地域の問題、低成
捉えた行財政の運営などのこ



▲輝かしい成績を収めた
香長中学校女子柔道部

四国地区中学校体育大会で、
香長中学校女子柔道部が、県
勢初の四国大会優勝に輝き、
続く全国大会で団体決勝トー
ナメントまで勝ち進み、ベス
ト8の好成績を挙げました。

人権 21世紀へ向けて ⑯ 同和教育シリーズ

今月号と来月号で、2年前に人権の主張で発表された南国市の
小学生の作品を紹介します(原文のまま)。

識字学級を勉強して 後免野田小学校5年 高見 沙希

私の祖父は、今、高知県地域改善協会(現・人権啓発センター)で
県民の人たちに、人けん問題に対する啓発の仕事をしています。
その祖父に、北代さんの手紙「夕やけが美しい」を学んだこと
を話しました。その時いろいろ聞いたことを参考にしながら、こ
の人けん作文を書くことにしました。

「夕やけが美しい」を学んで、私が一番感動した文章は、これ
まで「夕やけを見てもあまり美しいと思わなかったけれど、字を
おぼえてほんとうにうつくしいとおもうようになりました」とい
うところ。10年ながいきをしたいと思います」とい
うところ。北代さんの命が、字を覚えてから生きかえったように、
まるで夜空にまばたく星のように、キラツ、キラツとかがやきた
したように感じました。

当時、70才の北代さんが、生まれて初めて書いた手紙だそうで
す。上手な字ではありません。読みにくい折れ曲がった文字の一
つ一つのなかに、70才になって初めて字が書けたというよ
ろこびがあふれています。長い間、差別と貧困に負けずに生きぬいてき
た、たくましさや文章を通して伝わってきます。

私は3才から保育所に入所しました。6才からは、小学校へ入
学しました。こんなことは今の私たちの世代ではあたりまえのこと
となんです。店へ買い物にいつでも好きな本を読もうとした時
も、字を知らないというような不便さがあったり、そのため、大
へん苦しんだということなどの体験はありません。

北代さんは、子どものころ、勉強がきらいで学校へ行かなか
ったのではなかったのです。部落差別により家の人が安定した仕事
につけず、家のくらしがまずしかなかったために、家の手伝いや子守
りなどで、毎日を送ったので、学校で勉強することができなかつ

たのです。人なみに学校へ行きたい、しっかり勉強して、字の読
み書きもできるようにになりたいという願いや希望があったのです。
でも、家の生活を少しでも助けなければならなかったため、学校
へ行くことをあきらめ、家の働き手となって、今の私の時期を送
ったのです。

こんな北代さんの子どものころと、私の立場を入れかえてみた
時、私はどうでしょうか。正直なところ、今の私には、北代さん
のように、家のくらしのために、役に立とう、苦しい生活を送り
こえて、苦しみ打ち勝ちながら、たくましく生きぬこうとい
った生き方がとてもできそうにありません。どんな苦しみにも負
けず、いつでも上を向き、前を向いて歩いていける、強くたくま
しい人になれるように、今からでもがんばらねば……と反省させ
られました。

今、私は、祖父に紹介されて、高知の「文字をつかむ」(高知
の識字学級)の速さを学んでいます。

その中から、1963年に福岡県で識字学級は生まれたこと、
1970年代になって高知県の識字学級はできたことを知りまし
た。今の、県内識字学級生は約300人、その平均年齢は約63才だ
そうです。こんなことから考えても、識字学級は、過去のことで
はないなあと思いました。

10月10日の記事は、北代さんのことが書かれていて、学校で、
学習していたので親近感を覚えました。

一方、私たちの住んでいる南国市にも、識字学級が、25年前か
らあるようです。現在、40人以上の人が、毎週、月・金の2回熱
心に学習しているようです。

祖父は、その人たちのことを次のように話してくれました。
「識字学級へ出てくることが楽しみで、出てきたらどんな学習で
も、自分からやろうという意欲よくもっていた。いつでも、どこ
でも、だれとでも交流できることを喜んでるようだった。保育
園児とも交流会をもつて、その子らの気持ちを大事にした生き方
を学びあっているそう。これからは火を消さんようにがんばっ
ていきたい」と話していたよ」と話してくれました。(つづく)